

ので何でも口にほおこりこめば元気も出てリラックスしてくる。袴田が「これを飲みましようか」といって差し出したのは、何とーア

ので、てっきり不参加と思っていた。傑作だったのは、栗原が昨夜袴田の儀式に気が付いて「儀式におけるお好み焼きの作り方」を偉

第18期冬山合宿

剣岳

2994 m

毛利 哲也

●伊折先→馬場島→早月小屋→2600 m付近→馬場島→伊折先

▽90年12月30日～91年1月3日

▽CL毛利哲也(57) 装備山田茂

(46) 気象後藤隆徳(43) 食料杉

澤康秀(41) 記録藤巻郁雄(35) 「とりくみ」

当面の北アルプス最終目標であった

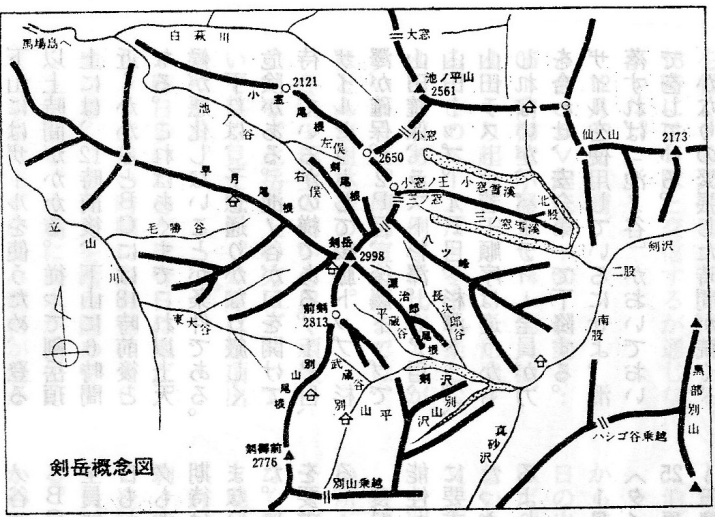
た剣岳冬山は、第17期に予定して

たが、剣岳遭難事故の影響で取り

組めなかった。その後、

事故処理、一周忌も終わり、安全対策も確立され

た今期、再び取り組まれた。



剣岳概念図

12月30日(晴)
 <タイム>三島6:00
 大町→糸魚川→滑川→伊折先(泊)
 馬場島まで入れず、6K手前に幕営。車は山田、藤巻が回送する。入山祝。19時就寝。
 12月31日(晴)
 <タイム>起床3:00
 出発5:00→馬場島7:00→1900m付近BC14:40(泊)
 荷物はかなり重く馬場島でバテバテ。入山届を

済ませ例の「山タン」をNo.840→844まで借りる。ここから5人パーティーと前後して登る。彼らは荷物が少ない。雪は1m以上でトレースはしっかりしている。早月尾根はかなりキツイ。1900m付近に着きBCを設営。隣に先行パーティーのテントが2つ。彼等は今日この快晴無風高温の中アタックし、登頂して元気で戻って来た。どうみても素人っぽい女の娘が登頂を満面笑みを浮かべて喜んでいたのが印象的だった。天気図によると明日の天気は良くない。風のない静かな夜である。なぜか後藤は酒を飲まない。隣のテントはにぎやかだった。19時40分就寝。

1月1日(雨)
 <タイム>起床3:00→5:00停滞決定
 一応3時に起き、5時出発の準備はするが、予想通り雨と霧。「天気、高気圧は期待にかなわず、北海道の東へ変わって現れた、太平洋側の低気圧の影響で雨」冬の剣岳に来て雨とは、何とも情けない。長い1日が始まった。杉澤はこの際寝だめか、ラジオを聞いたたり、たわいのないおしゃべり。一番の話題は、女性会員のほめ言葉? 「山口は割りと可愛とところがある。」「村松さんは・・・」などなど。あとは食べて飲むだけ。今日も後藤は飲まない。明日の天気もあまり良くないと思われるが、期待するしかない。

1月2日(風雪)
 <タイム>起床3:00→出発5:00→早月小屋6:00→シシ頭直下9:20→早月小屋11:15→BC12:10(泊)
 天気は前日と変わらず、雨から雪。気温0→2度。アタックを決める。3日以降の天気の良くなる保障はない。今日が最後のチャンス。完全装備着装。後藤、山田、藤巻、毛利、杉澤のオーダ! 1P半で早月小屋着。テント数張。2パーティーがアタック準備をしている。小屋前から急な雪壁。霧で見通しが悪い。小雪の中、4つ程ピークを越える。2700mのシシ頭直下に着いた。1パーティーが先行してシシ頭に取付く。我がパーティーは、天気の状況、頂上までの時間を考え、ここまでとする。ここから「カニのハサミ」を通過して頂上まで3時間。